

経営比較分析表

神奈川県 松田町

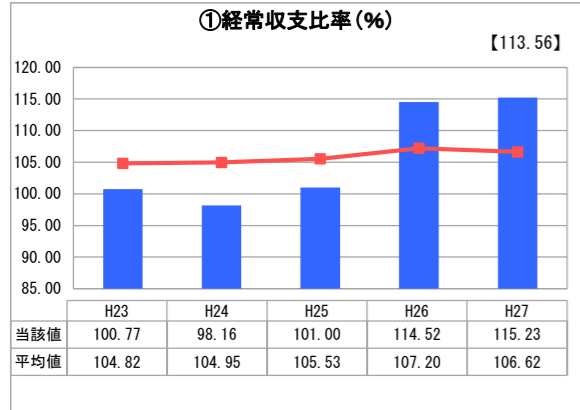
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A8
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	89.34	79.89	1,458

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
11,456	37.75	303.47
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
9,087	2.53	3,591.70

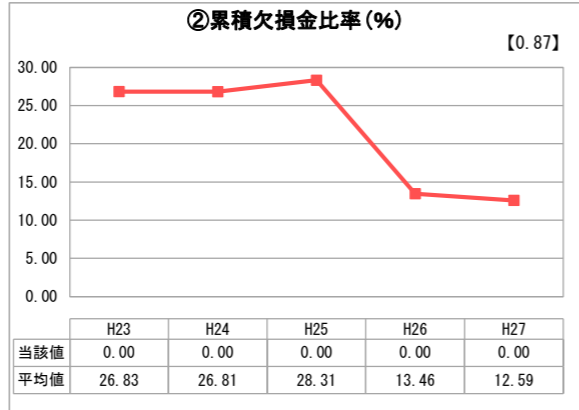
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成27年度全国平均

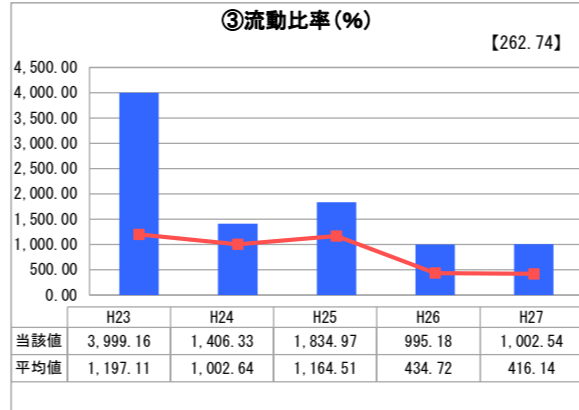
1. 経営の健全性・効率性



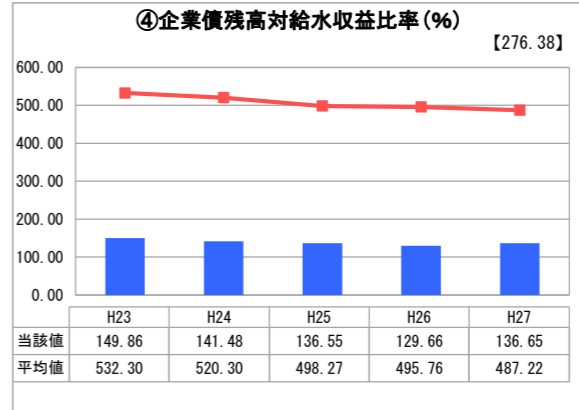
「経常損益」



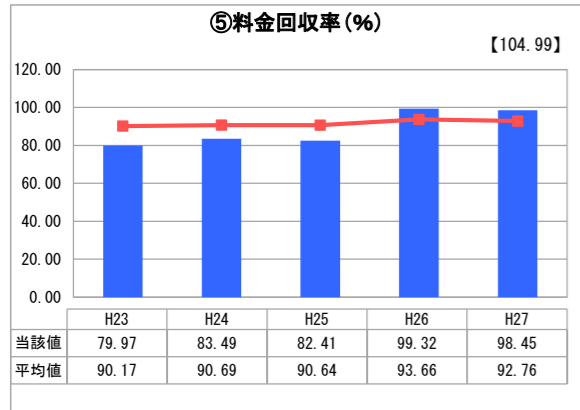
「累積欠損」



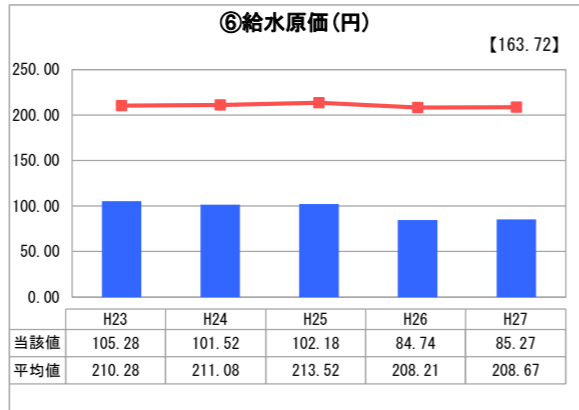
「支払能力」



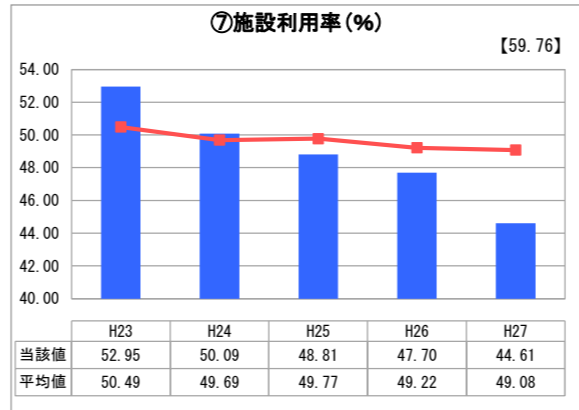
「債務残高」



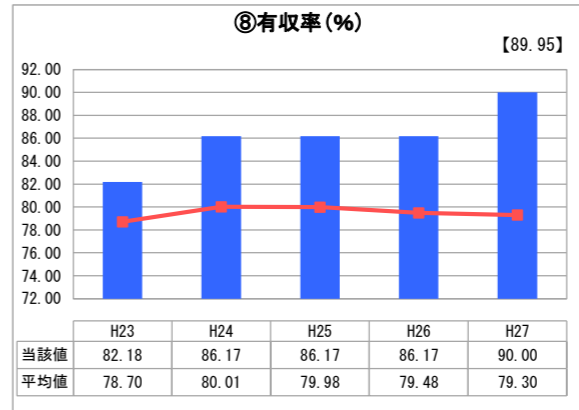
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

分析欄

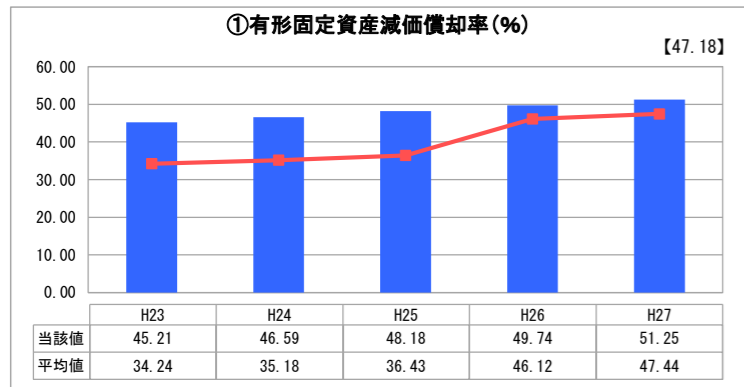
1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率100%以上、累積欠損金比率0%、流動比率100%以上であり、企業債残高対給水収益比率も類似団体平均値よりも低い状態ですが、料金回収率は100%未満となっています。これは、経常利益のうち給水収益の減少傾向を、営業外収益である加入負担金が補てんする形で利益をあげているため、不確定要素である新規加入に依存しない安定した経営を目指す必要があります。

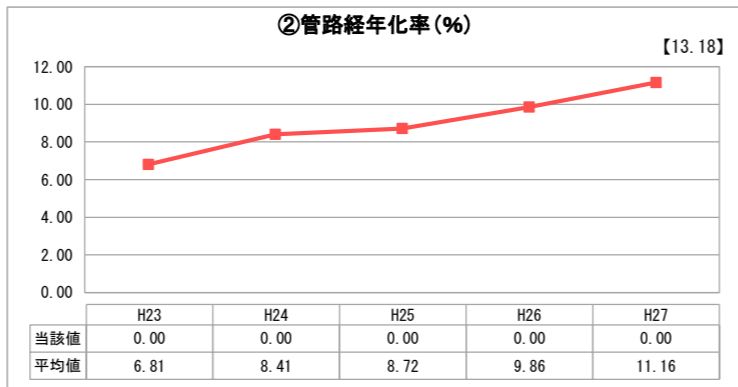
2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は類似団体平均値より高めであり、管路経年比率は下回っている。これは管路以外の固定資産が老朽化しているのに対して、管路はほぼ法定耐用年数内にあると言える。耐震性能については、膨大な費用と時間がかかることから、給水に必要なシステムを維持していく上で重要な基幹施設から耐震化を行っていきます。また、管路の布設延長は、約41kmで、その内耐震管は上水道全体の5.4%となる2.2km布設されていますが、重要な管路を優先し、残りは老朽化に合わせて敷設替えしていきます。

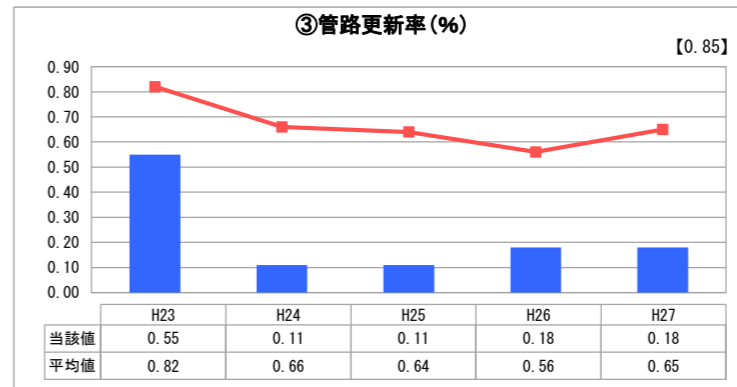
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

全体総括

厚生労働省の水道ビジョンでは、給水人口10万人以下の中小規模事業所においては、有収率・95%以上とすることを目標としています。現在、当町の上水道事業の有収率は90.00%で、収益に直結しない、無収率は10.00%です。これを3年計画で、漏水調査を行い有収率アップに繋がりたいと考えています。目標は、無収率を5%以内といたしました。このことにより維持管理費の更なる削減を図ることができます。

また、平成6年度に料金改定を行ってから大分年数がたっています。ここ数年で水道使用料と給水人口が年々右肩下がりが続いているので、料金改定の準備を進めているところです。平成29年度に、公益社団法人日本水道協会の経営診断報告書等に基づき、適正な水道料金の見直しに入る予定でいます。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年比率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。